

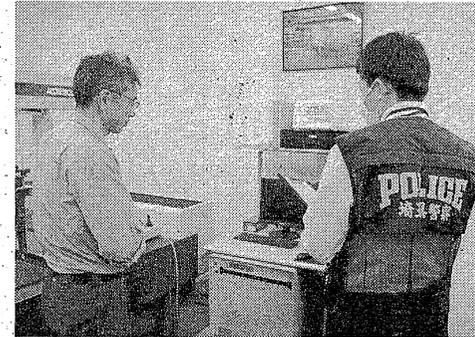
工場データ攻撃に備え 大和合金、埼玉県警と訓練

大和合金（東京都板橋区、萩野源次郎社長）は、埼玉県警察本部とともに三芳工場（埼玉県三芳町）で「技術情報流出防止訓練」を実施した。大和合金としては初の試みで、東入間警察署や関東経済産業局の関係者らも参加した。わが国の経済安全保障対策の一環で、技術情報流出への懸念が高まる中、同様の取り組みは注目されそうだ。

訓練は、大和合金が開発する特殊銅合金の製造データが海外サイトに流出

し不正に売買されているとの連絡を受け、調査を開始するというもの。埼玉県警への通報や県警によるヒアリング、三芳工場にある測定装置のサーバーデータ、防犯カメラ・入退管理確認を通じ、製造データの真贋（しんがん）確認などを行った。終了後、従業員を集めてフォローアップセミナーを実施した。

萩野社長は「我々のような中小企業でも外部から常に狙われている。意識



測定装置のサーバーデータの確認訓練

して活動しなければいけない」と語り、県警の高橋武外事課長も「情報が不法に流出する問題が起きているが、氷山の一角、かもしれない。危機意識を持つことが重要」としている。（川越）